

2024年 鵜沼第一小学校 実践構想図

【学校の教育目標】

誇りをもって 進んで やりぬく子

自愛 自主 自律
自己有用感の涵養 主体性の育成 完遂力の鍛錬

【児童の実態】

- ・二極化している。
- ・単元ごとに学習した時は図を用いて説明することができるが、時間がたつと忘れてしまう。
- ・図や式など、自分の考えの書き方が分かるようになってきた児童が多い。
- ・分数や小数が含まれる計算（特にわり算）が弱い。
- ・パターン化されたものについては説明できる児童が多い。
- ・仲間の意見と比べて聞く力が弱い。
- ・数量や図形についての感覚が身につけていない児童が多い。
- ・文章を読んで立式することが苦手な児童が多い。

【願う児童の姿】

- ・具体物や図を指し示しながら、自分の言葉で説明することができる。
- ・分数や小数が含まれる計算を正しくすることができる。
- ・複数の情報から、必要な情報を読み取ることができる。
- ・自分の考えを仲間の考えと比べながら聞いたり、仲間に伝えたりしながら考えを深めることができる。
- ・数量や図形についての感覚を豊かにすることができる。
- ・数とその表現や数量の関係に着目し、数直線図や線分図など、目的に合った表現方法を用いて表すことができる。
- ・自分の考えを算数用語を用いて筋道立てて説明することができる。

【実践主題】

「分かった!」「できた!」「楽しかった!」を極める授業づくり

【実践内容と具体的な手立て】

【実践内容① 個別最適な学びの視点】

具体物、半具体物の操作

- ・事象、数や量の確認や比較・検討をすることで、問題設定の場面状況をより正しく理解し、課題解決の見通しをもてるようにする。

終末での児童の姿の明確化 ★

- ・終末で、どの問題を、どのように解けたらよいのかを明確にした授業づくりを行う。

習熟時間の確保 ★

- ・評価問題を段階的に提示したり、定着度に応じた問題を用意したりして、学習内容がしっかりと身に付いているか定着を図る。

★ 2024年に重点的に実践する内容

【実践内容② 協働的な学びの視点】

交流活動

- ・何のための交流なのかを明確にし、ペア交流やグループ交流等の活動を通して、考えを深められるようにする。

言語活動

- ・自分の考えを分かりやすく仲間に伝えたり、仲間の意見を自分の考えと比べながら聞いたりすることができるようにする。

話型の活用 ★

- ・自分の考えの根拠を明確にし、順序立てて、算数用語を使って話すことができるようにする。

まとめ、振り返りの場の設定 ★

- ・課題に対する自分なりの解決を振り返る場を位置付け、自分でその時間の学びを振り返ることができるようにする。

「聴き名人・話し名人」の表の視覚化と目標の共通理解

ICT機器の効果的な活用

どんどんノートを活用した自主学習の充実

教室環境の整備

10点筆箱の指導